

# 調査結果

里地の生きもの

植物

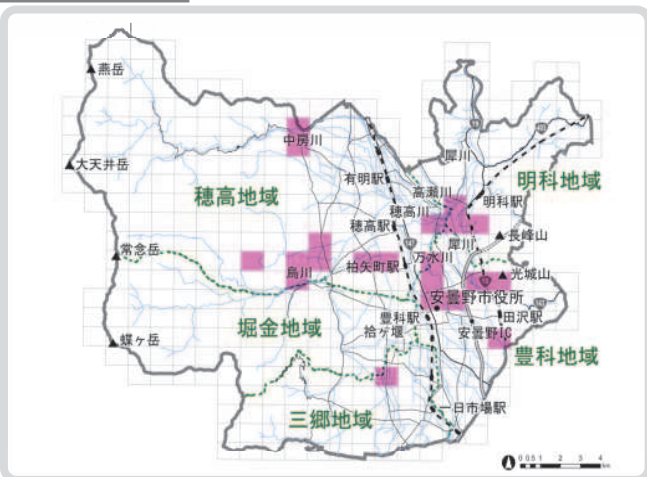
シナノタンポポ

2007年度



シナノタンポポは、平地を中心に広い範囲で生育が確認されています。2023年度は、2007年度と比べると減少傾向がみられ、特に市の南東部ではほとんど確認がありませんでした。セイヨウタンポポとの生育場所の競合や交雑、生息に適した環境の減少などによって、個体数が少なくなっている可能性があります。

2012年度



2018年度



2023年度



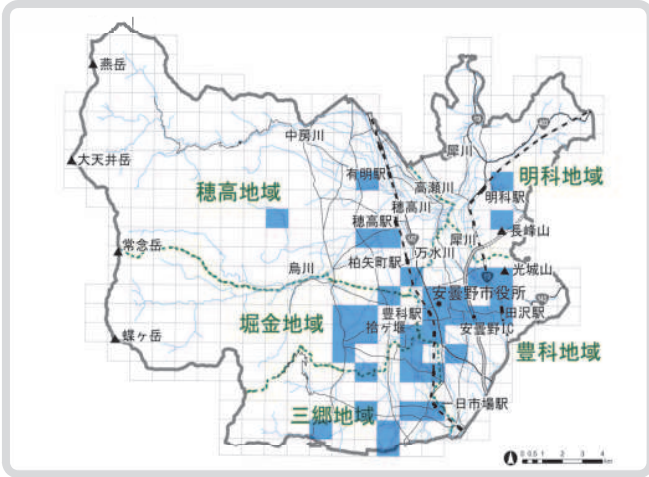
# 調査結果

里地の生きもの

植物

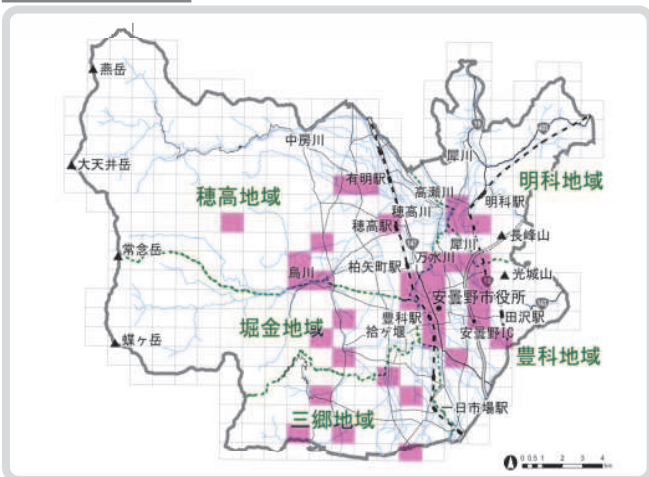
セイヨウタンポポ

2007年度

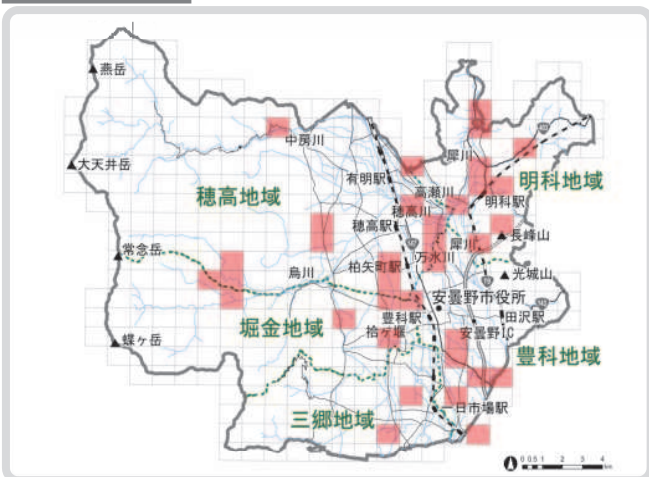


セイヨウタンポポは、平地を中心に広い範囲で生育が確認されています。概ね、分布範囲に変化はありませんが、過去の調査と比べると、市の南東部での確認がやや減少しました。シナノタンポポとの交雑種なども確認されており、今後の変化を見守っていくことが望まれます。

2012年度



2018年度



2023年度





# 調査結果

里地の生きもの

植物 アマナ

2012年度



アマナは、穂高・明科地域の山麓部の一部で生育が確認されています。元々確認地点が少ない種で、2018年度と分布に大きな変化はありません。以前は食用として利用されてきた植物ですが、草原の樹林化によって生育地が減少している可能性があります。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023

# 調査結果

里地の生きもの

植物 ユウスゲ

2012年度



ユウスゲは、穂高の山麓部や明科地域の長峰山周辺で生育が確認されています。元々確認地点が少ない種ですが、市内の開けた草原などに生育しており、分布状況には大きな変化はないとみられます。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023



# 調査結果

里地の生きもの

植物 ワレモコウ

2007年度



ワレモコウは、豊科地域を除く山麓部で生育が確認されています。2023年度は、過去の調査で確認されていた平地での確認がなく、山麓部での確認情報がほとんどでした。平野部周辺では生息に適した環境が減少している可能性があります。

2012年度



2018年度



2023年度

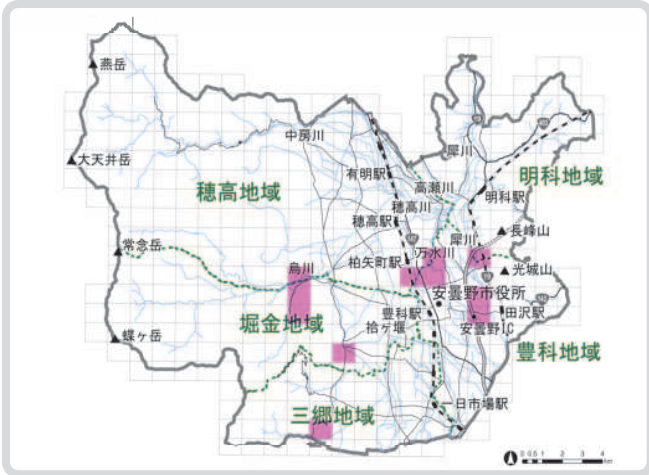


# 調査結果

里地の生きもの

植物 ヤブカンゾウ

2012年度



ヤブカンゾウは、市内全地域の道路脇や畔などで生育が確認されています。2012年度は、穂高地域で確認がありませんでしたが、2018年度以降確認されるようになり、2023年度現在、市内に広く分布しているとみられます。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023



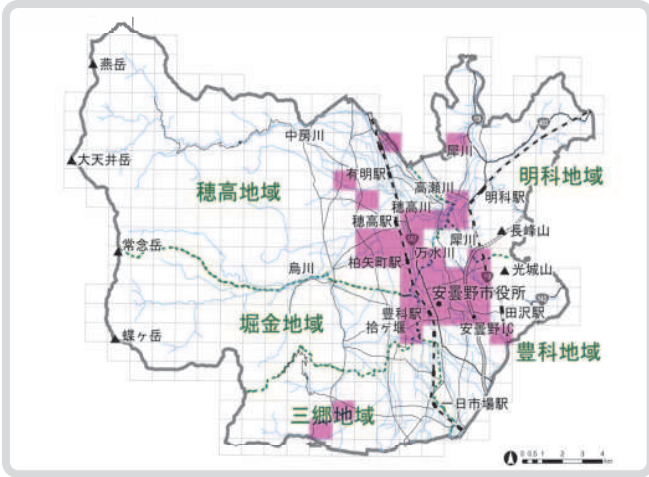
# 調査結果

里地の生きもの

植物

## オオキンケイギク

2012年度

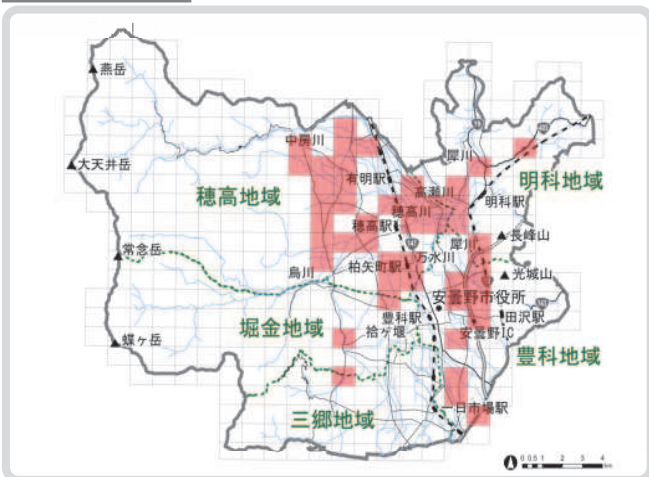


オオキンケイギクは、平地から山麓部を中心とした広い範囲で生育が確認されています。

黄色のきれいな花が咲きますが、あたり一面を覆ってしまうほど繁殖力が強い外来の植物で、特定外来生物に指定されています。

2023年度は、過去の調査との大きな変化はみられませんが、今後の動向に注意が必要です。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023

# 調査結果

里地の生きもの

植物 オオブタクサ

2007年度



オオブタクサは、平地から山麓部を中心とした広い範囲の河川敷や道路脇などで生育が確認されています。強い繁殖力を持ち、人間への健康被害などをもたらすおそれがある外来の植物であることから、要注意外来生物に指定されています。2023年度は、過去の調査との大きな変化はみられませんでした。今後の動向に注意が必要です。

2012年度



2018年度



2023年度





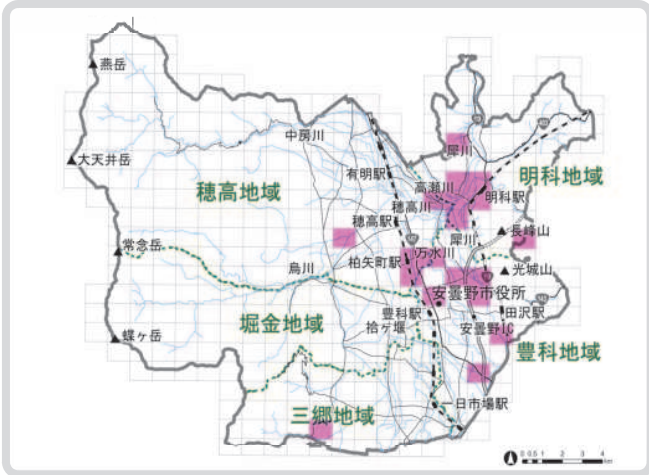
# 調査結果

里地の生きもの

植物

ナヨクサフジ

2012年度



ナヨクサフジは、市内全地域の特に道路沿いで多く生育が確認されています。2012年度は、犀川周辺の広い範囲を中心に確認されていましたが、2023年度は、明科地域の山地や穂高、堀金、三郷地域の山麓部でも確認されており、増加傾向がみられています。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023

# 調査結果

里地の生きもの

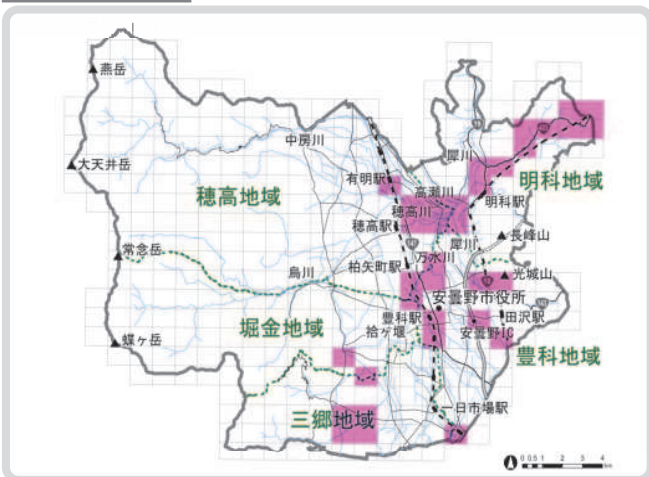
植物 アレチウリ

2007年度

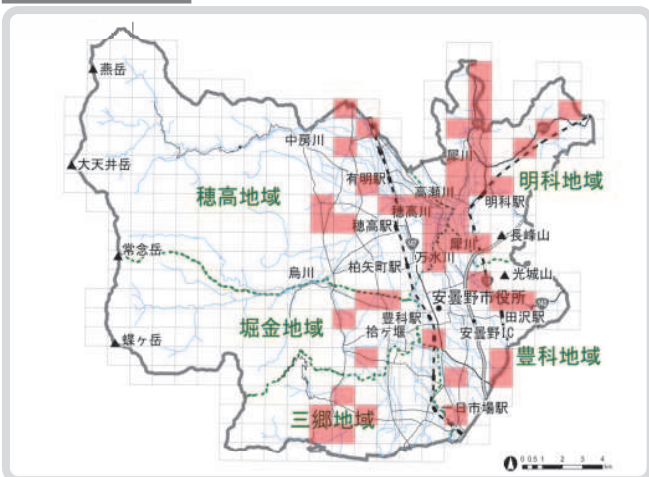


アレチウリは、平地から山麓部を中心とした広い範囲の河川敷や道路脇などで生育が確認されています。2018年度までは、分布の拡大傾向がみられましたが、市民による駆除活動なども積極的に実施されており、2023年度の確認地点数はやや減少しました。しかし、一時的な減少や報告数の変動の可能性も考えられるため、駆除活動の継続とともに、今後の動向に注意が必要です。

2012年度



2018年度



2023年度

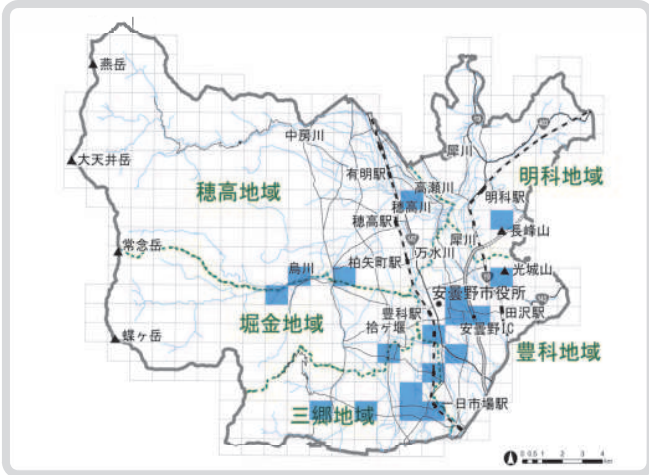




# 調査結果

## 里地の生きもの 昆虫類 ツマグロヒョウモン

2007年度



ツマグロヒョウモンは、主に温暖な地域に生息し、幼虫はスミレ類を主食にする種のため、近年の気温上昇とパンジーの植栽により全国的に分布が北へ拡大傾向にあることが知られています。市内では全地域の平地から山麓部の広い範囲で生息が確認されており、調査回ごとに、確認場所が北上する傾向がみられています。

2012年度



2018年度



2023年度



# 調査結果

## 里地の生きもの 昆虫類 アオマツムシ

2007年度



アオマツムシは、市内の平野部で生息が確認されています。

長野県内では地球温暖化に伴う気温上昇とともに分布域が広がっているとされており、市内でも2007年度の第1回調査から確認されています。

2018年度は、豊科地域のみで確認されていましたが、2023年度は、穂高地域や明科地域でも確認されました。気候変動によって、今後も確認記録が増加していく可能性があります。

2012年度



2018年度



2023年度

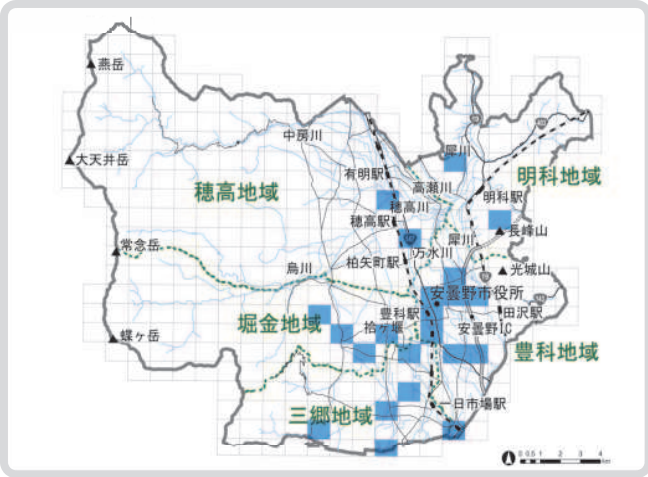




# 調査結果

## 里地の生きもの 昆虫類 トノサマバッタ

2007年度



トノサマバッタは、2007年度の第1回調査では、市内全域の広い範囲で確認されていましたが、2023年度は、明科・豊科地域の各1地点のみとなり、確認メッシュ数は大きく減少しています。草地環境を好む種ですが、生息に適した草地が減少している可能性があります。

2012年度



2018年度



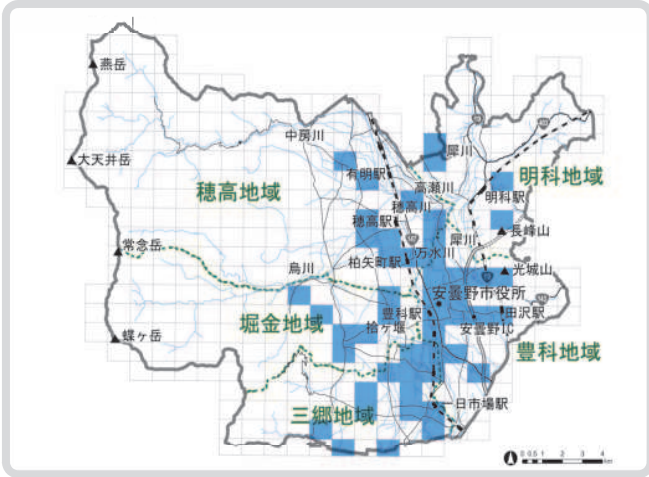
2023年度



# 調査結果

## 里地の生きもの 鳥類 ツバメ

2007年度



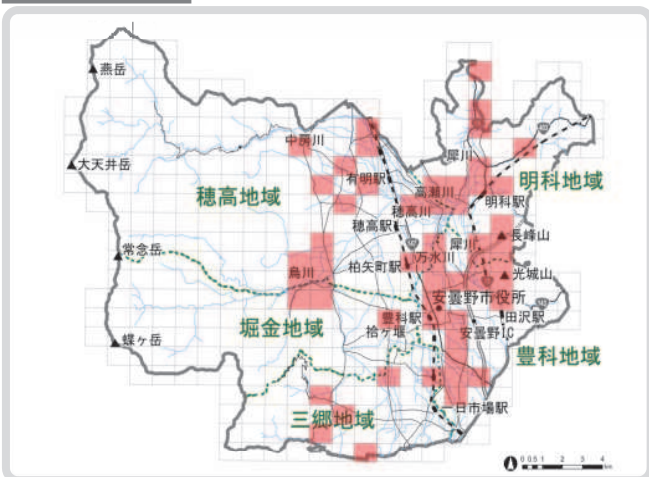
2012年度



ツバメは、市内の平地から山麓部にかけての広い範囲で生息が確認されています。

2023年度は、対象種の中で最も確認地点数も多く、2007年度以降、分布状況に大きな変化はみられていません。しかしながら、他県では巣材の泥をとる水田の減少や、巣が造りにくい構造の家が増えてきたためツバメが少なくなっている地域もあり、今後の状況を見守っていくことが望まれます。

2018年度



2023年度





# 調査結果

## 里地の生きもの 鳥類 イワツバメ

2007年度



イワツバメは、市内の平地で生息が確認されています。

元々山地の崖地に巣を造る種でしたが、平地の建物や橋の壁などの人工物にも巣を造って繁殖することが知られており、2023年度は、高速道路の高架下や川沿いなどで飛翔する姿が目撃されています。

河川の多い市内には、繁殖に適した場所が比較的多いと考えられます。

2012年度



2018年度



2023年度

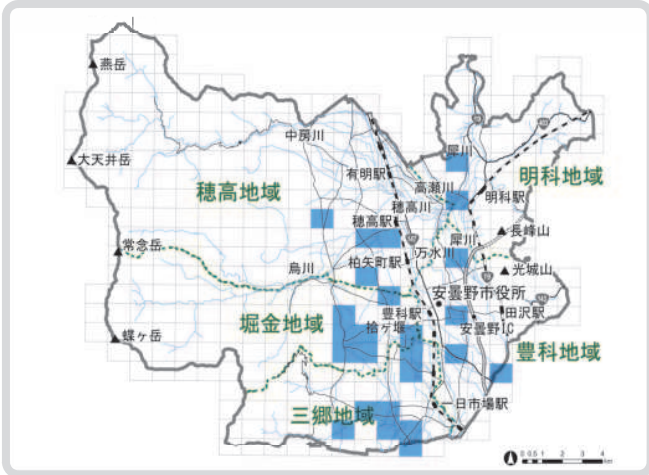


# 調査結果

里地の生きもの

鳥類 ヒバリ

2007年度



ヒバリは、2012年度の調査以降、南部での記録が減少していましたが、2023年度は、概ね2007年度と同様に、市内の耕作地や河川敷の広い範囲で生息が確認されています。開けた草地環境を好む種ですが、樹林化が進むと、個体数に影響する可能性があります。

2012年度



2018年度



2023年度



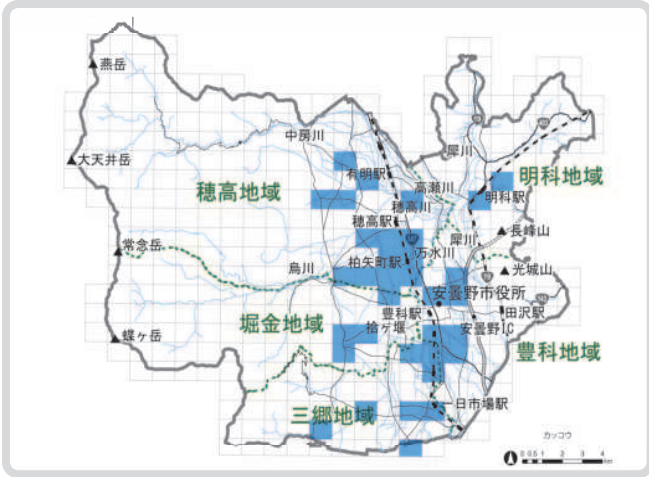


# 調査結果

里地の生きもの

鳥類 **カッコウ**

2007年度



カッコウは、豊科地域の市街地などでの記録は少ないものの、平地から山麓部にかけての広い範囲で生息が確認されており、生息状況に大きな変化はみられませんでした。

日本では、「いち早く夏の訪れを告げる鳥」とされており、気象庁の生物季節観測動物として、その年一番最初に鳴き声を聞いた日が地域別に記録されていた時代もあります。

特徴的な良く通る鳴き声のため、多くの情報が寄せられています。

2012年度



2018年度



2023年度



# 調査結果

里地の生きもの

鳥類 **オナガ**

2012年度



オナガは、平地や山麓部にかけて生息が確認されています。

2018年度までは、主に穂高・堀金地域で確認されてきましたが、2023年度は、市の南部の複数地点から新たに生息情報が寄せられました。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023



# 調査結果

## 里地の生きもの 【爬虫類 ニホントカゲ】

2007年度



ニホントカゲは、主に山麓部を中心に市内の平地でも生息が確認されています。これまで計4回の調査で大きな変化はみられておらず、山麓部や河川沿い周辺の日当たりのよい場所などで生息していると考えられます。

2012年度



2018年度



2023年度



# 調査結果

里地の生きもの  
爬虫類 ニホンカナヘビ

2007年度



2012年度



ニホンカナヘビは、市内の中・北部の山麓部から山地にかけて広く分布していることが確認されています。2023年度は、長峰山の広場や、国営アルプスあづみの公園など、草地環境で多く確認されており、それらの場所には、生息に適した日当たりの良い場所が広がっていると考えられます。

2018年度



2023年度





# 調査結果

## 里地の生きもの 哺乳類 アブラコウモリ

2007年度



アブラコウモリは、2018年度までの3回に渡る調査で、市内の平地や山麓部までの広い範囲で確認されていましたが、2023年度は、確認地点数が大きく減少しました。日中の確認や、夜間の種の同定が難しいため、調査参加者の変化によって報告数が変動した可能性があります。近年の気候変動によって餌となる昆虫の減少が発生していることが影響している可能性も考えられます。

2012年度



2018年度



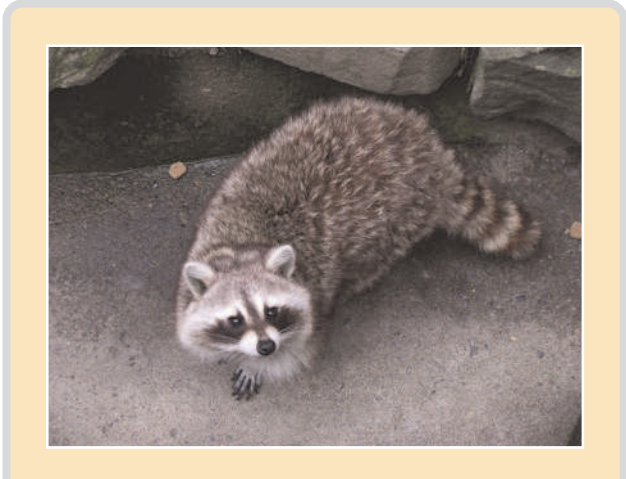
2023年度



# 調査結果

## 里地の生きもの 哺乳類 アライグマ

2012年度



アライグマは、2002年に明科地域で初めて確認されましたが、その後の生息状況はよく分かっていませんでした。しかし今回、豊科地域の2地点で生きもの調査としては初めて生息が確認されました。また調査終了後には、堀金地域や三郷地域でも確認されています。近年は市周辺の自治体でもアライグマが確認されており、中信地域での生息範囲が拡大している可能性があり、注意が必要です。

2018年度



2023年度



第4回 安曇野生きもの調査 2023



# 調査結果

## 里地の生きもの 哺乳類 **ハクビシン**

2007年度



2012年度



ハクビシンは、2007年度は、堀金・明科地域の山地の一部で生息が確認されていましたが、2012年度以降、山麓部や平地でも確認されており、2023年度も同様の傾向がみられています。農業被害のほか、空き家などに住み着いて被害を出すこともあるため生息状況を見守っていくことが望まれます。

2018年度



2023年度



# 調査結果

里地の生きもの

植物

## オオハンゴンソウ

2023年度



オオハンゴンソウは、繁殖力が強い外来種で、特定外来生物に指定されています。特に河川や道路沿いに多く生育しており、常念岳の登山口に向かう一の沢林道沿いでも生育が確認されていることから、高標高域への分布拡大が懸念されます。